

北海道室蘭市「5月10日」
▼出前講座の健康相談

室蘭市について特筆すべき点は、出前講座による健康相談が年間90回ととても多く、その背景には、大病院3カ所、看護学校2校が出前健康講座や介護予防教室に対する理解(協力体制)がある。現在は「健康増進計画第二次はつぴい室蘭21」(平成27年3月策定)に基づき、出前健康講座の開催だけではなく、乳幼児から高齢者まで、全ての市民が日ごろから健康づくりに取り組むための指針としている。また、「室蘭市がん対策推進条例」を制定し、市をあげてがん対策に取り組もうと行政、議会、医師会、患者団体、企業、マスコミの6つの機関が参加して28年2月に「室蘭がんフォーラム」を発足させている。

岩沼市においても、健康増進事業の中でさらに一歩踏み込み、地域を含めた取組とともに「がん対策推進条例」の制定を研究すべきと考える。

北海道登別市「5月11日」
▼公立保育所の民営化の検討

登別市の長所は「公立保育所で培われた保育に、民間の手法や技術を取り入れた幼児教育を加え、『保育』と『教育』の一体的な提供を図り、将来的に認定子ども園を目指す」という点である。

岩沼市においても、市内4カ所の保育所中3カ所が手狭であったり、施設の老朽化の問題がある。子どもたちの過ごす環境を考慮しながら検討すべき時期に来ている。地域性に合わせた計画づくりのためには、保護者、行政との話し合い、移行するための準備期間も十分に取る必要があると考える。



登別市で調査する委員

建設産経常任委員会

千葉県成田市「5月23日」
▼観光振興

成田市は、年間1000万人の参拝客が訪れる成田山新勝寺があり観光資源に恵まれている。空港と神社・仏閣があるという点では岩沼と似ているが、規模は大きく異なる。しかしながら、「運氣上昇のまち成田」をフレーズにした観光振興への貪欲な姿勢は印象に残っている。

岩沼市においても、一時的な通過地点とならないために、仙台空港や交通の要所としての地域性を生かす取組をこれまで以上に進め、旅行形態の多様化や急激に変化する観光情勢に対応していくことが必要と考える。

現在取り組んでいる広域での自治体連携、岩沼ブランドの推進、インバウンド観光などの取組に加え、観光客を迎え入れる市民意識の醸成や観光ボランティアの育成、受け入れのインフラ整備(宿泊施設不足、多言語観光案内板の設置)を進める必要がある。また、竹駒神社や金蛇水神社、千年

希望の丘などを効果的に利用するフィルムコミッションを立ち上げ、関係各所の協力による、映画やテレビ番組のロケ地を誘致することも必要と考える。

大阪府池田市「5月24日」
▼観光振興及び中心市街地活性化事業

池田市では、商業の活性化を図るため池田市、池田商工会議所、市内商工業者、住民が出資し、「わがまち池田市を応援する会社」である「いけだサンシー株式会社」を設立している。当該会社は安定した収益確保のため、池田市、池田商工会議所等の受託事業を行っている。

岩沼市は、市内商工業者とのさらなる連携を強化するため、お互いが自由に話し合える機会を増やし、中心市街地の活性化や観光振興に取り組む必要があると考える。

大阪府泉南市「5月25日」
▼観光振興

泉南市は関西国際空港から車で15分の場所にある。関空は近年利用客が急増し、大阪を訪れる観光客も急増しているが、6人に1人(約

18%)が京都、奈良を目指して大阪を素通りしている。泉南市の課題は、2次交通、受け入れ環境、宿泊施設の不足であるため、シビックプライドを醸成するなど地域の「観光力」を鍛える事業を展開している。

岩沼市は仙台空港のあるまちであるが、市中心部から遠く、空港から他市の観光地への直通バスも運行し、通過地点となっている現状がある。周遊性、滞留性の向上を目指すためにも、今取り組んでいる広域(近隣)での自治体連携や岩沼ブランドの推進に加え、観光客を迎える市民意識の醸成、県外自治体との「超広域観光圏」の形成を図る必要があると考える。



成田市で調査する委員